



平成12年度 熊本さわやか長寿大学校 卒業式 平成13年3月15日 於 ニュースカイホテル

九期会会報

さわやか大学熊本校

九期会報今号で閉刊

思い出を紡いだ二十年に幕

第36号
令和2年5月1日 発行
さわやか大学九期会事務局
(Tel:090-5281-4885)

20年前、私たち9期生は若いでした。男性は背広にネクタイ、女性はスーツか和服姿、背筋が伸びキリッとしています。男性は生涯の一仕事を、女性は子育てを終わり、表情もこれからの人生をエンジョイできるという希望と喜びに満ち溢れています。(紙面の関係で写真縮小)
性別、肩書き、年齢差など断捨離した9期生集団の顔・顔・美しくさえ見えます。物故された方々のご冥福を祈りながら、さわやか大学校を創設された当時の熊本県知事 故福島譲二氏の先見の明に感謝申し上げたい。



令和2年度事業予定と役員

期日	役員会等	催 事
2年1月	役員会	総会新年会
3月4日	役員会	花 見
5月1日	役員会	定期発行
7月1日	役員会	
11月4日	役員会	
12月2日	役員会	
3年1月		総会新年会

令和2年度の役員

会長 長 納富 将光 (留任)
 事務局長 石躍 春生 (留任)
 会計理事 今村 隆 (交代)
 理事 寺地 靖 (交代)
 監事 荒牧 勇 (交代)

今年もよろしくお願ひ致します

お知らせ

●三月に実施予定の花見は新型コロナウイルスのため中止しました。
 ●長らく共にやってきた上野さん・柴田さん・菊池さんの三名が体調不良のため退会されました。お元気でいて下さいね。
 ●毎年各期連絡協議会の期ごとの会員数を掲載してきましたが、今年度はまだ集計されていないため、掲載できませんでした。
 ●九期会員十四名の平均年齢(五月一日現在)は八二・六四歳でした。最高年齢は八十八歳、八十七歳、一番若い方が七十六歳でした。



総会・新年会(令和2年1月23日)熊本市上通り「和数奇」

今年度会員数14名・平均年齢82・6歳全員出席のもと、目出度い「1月1日」を全員で合唱、新年度スタートを祝いました。

「シアワセな幸運命」

初代会長 荒牧 勇



八十一歳になった。身体の主力エンジンも耐用年数が過ぎて、弱ってきた。しかし、健康だけが幸せでもない。趣味であれ、仕事であれ、人生最後の一日まで、没頭できるものを持つことが幸せではなからうか？あなたに何か没頭できるものがあるかと問われると？ググッといき詰まる。趣味の山登りは、その年齢でいつまで登ると、周りがうるさい。写真と言えは、重い機材を担いで山や川に行くのは危険だという。家族との折り合いが難しい。熊本地震の後、小学校児童相手にボランティアをしている。児童との触れ合いは、孤独な老人にとって、この上ない刺激になる。何時の日だったか、マスク姿の私に先生、風邪の予防には「かぼちゃ」が良いと、インターネットで見たよ。かぼちゃを食べて早く元気になってよと励ましてくれた。何とも思いやりのある児童だと感激!! 目頭が熱くなる。この頃、何かといえば涙もろい。あー八十一歳の老人なのだ。人生、残された時間はわずかだ。児童ボランティアに集中しよう。

「木漏れ陽」を読んで

現会長 納富 将光



2ヶ月前までは予想もしなかった、コロナウイルス感染症の猛威がわが身にまで及ぶとは、思ってもいませんでした。公民館講座、陶芸教室、元同僚との月一回の飲み会など全て延期となり、暇を持て余しウオーキングの回数だけが伸びている毎日です。それはさておき、九期会二十周年の区切りとして、最終の会報への投稿をお願いしますが、その会報について、今般、石躍さんが第一号から一部の洩れなく会報をコピーし「木漏れ陽」を作成、配布して頂きました。

「よくまあ全部保存されていたな」と驚きもし、感謝にたえません。熊本地震で引越しを余儀なくされ、保管スペースが無くなり、退職後の諸活動の資料に加え、さわやか大学入学時の学習資料や行事関係の資料も処分してしまっていたので本当に有難く思いました。「木漏れ陽」を頂いて、頁をめくると、各年度の役員名、行事の内容、旅行の行き先など九期会の歴史が蘇りまた投稿内容を読んで、その方の生き方、考え方、ご経験など改めて知ることが出来、素晴らしい方々と一緒にやってこれたのだと再認識しました。最近、人生二〇〇年時代と言われ始めましたが、あと、二〇年は長いなアと言うのが正直なところです。惚けず、介助を受けず、自分で動ける状態で、人生を全うする、と自分で予定できないのが辛いところですが、ドリス・デイの歌にあるように、「ケセラセラ、なるようになるわ、さきのことなど分らない」の心境で、先ずは「今日一日、今日一日」の積み重ねで、当面、一年後に延びた「2020東京オリンピック」を元気で見ることを目標に生きて行こうと思っている、今日この頃です。

「九期会会報」閉刊ご挨拶

事務局長 石躍 春生



今年(西暦二〇二〇年)は、干支は子年、七回目の年男になりました。この記念すべき年に、長く続いた会報各期会報の最古参紙を閉刊するにあたり、寂寥感がふつと湧き、私の心を痛めます。
 これまで会報の編集に当たられた初代中村博行さん、そして中島敬也さん、石原元之さん・・・と、延々と続いた先人たちの功に、水をさすことになり、深くお詫びを申し上げます。
 もとより、会報は「両面の鏡」のように、表に会員皆様の寄稿協力、裏に編集担当者の努力とが相まっての、結果にほかありません。永い間のご協力ありがとうございました。しかし、会報は閉刊しましたが、九期会はまだまだ続きます。昨年、会報を二月一日に始まり十二月三十一日に終わる「二」に、会則を変更したため、総会を一月に実施しました。新型コロナウイルス禍が世界を覆うギリギリセーフで会員皆様の元気なお姿を拜見できました。今年他の期や各期連絡協議会など、総会を四月か五月に開催されますが、今年昭和三十二年八月終戦以来の大きな危機ですが、辛抱には慣れている私たち高齢者、ウイルスなどに負けないよう、互いに頑張りましょう。

長い間の9期会報へのご協力ありがとうございました

アイウエオ順・原文のまま編集しました。



「今の生き甲斐は」

今村 隆俊

さわやか大学在学中の思い出は、第一回はじめての講義は日赤の小山先生の健康についての講義でした。

たばこはいけません。高齢者は特に禁煙した方がよい。この言葉が気になって五十年のたばこ人生を禁煙するか、さわやか入学記念に禁煙することが出来ました。

あれから七十年、平和な幸せな時代を過ごさせて頂きました。

さわやか大学九期会会報、「木漏れ陽」を見ますと、会長、寺地、靖氏の期間、私は都合で一端九期会を退会、鹿児島島の米の津で淋しい思いをし、言葉の違い、土地の違いなど、良い経験をしました。

さわやか九期会に再入会して、元に戻りました。元気で歩ける内はさわやか大学九期会の役員をやらせて下さい。

今の生き甲斐はお茶をやること、さわやか大学のお世話をすることです。



「九期会報に感謝」

甲斐 スエモ

「光陰矢の如し」二十年位は早いものです。九期会とともに馬齢を重ねています。

楽しかったことばかりでなく、思いがけぬ別離もありました。ユーモアたっぷりのムードメーカーさんも、その中のお一人。背が低い私に「アタは中学生のごたる」とか「泥つきのジャガ芋のごたる」とか笑いながらチャカされたこともありました。

単純な性格が取り柄の私は深い意味も考えず、九期会発足時は、まるで別人のような体力、気力、スタイル。九期の全員が若々しくて、いろんな場面での写真が物語っています。

見学旅行、新年会、総会、花見会と「走馬燈」のように浮かんでいきます。

年齢と一緒に失ったものも多いけど、なくしたものを悔むより、今あるものを教えて生きているのが幸せとか。

会報が今回で終了とは寂しいですね。改めて役員皆様のボランティア精神に心から感謝いたします。



「九期会の宝物 木漏れ陽」

塚本 忠

一月の新年会において、第1号から第35号までの「木漏れ陽」発刊で私たち九期会の歴史の集大成となる宝物「木漏れ陽」を石躍様より頂き誠に有難うございました。深く感謝申し上げます。

さわやか大学校を卒業し、九期会が発足したのが平成十三年四月二十六日、八十六名の会員でこれからの人生を自分らしく楽しく生きていこうと誓い、今日までの二十年間、その証となる九期会会報、これまで継続して発刊されたのは、広報委員の努力と会員の寄稿への協力があつた結果と思えます。「木漏れ陽」を拝読させてもらう度に会員の姿が浮かび、懐かしさが沸き上がる。また、会員一人ひとりの願い、希望、実践、思いやり!!の心等が私の心に語り掛けてくれる「木漏れ陽」です。今後も「木漏れ陽」を九期会員の宝として、私の人生の友として活かしていきます。



「投げ込み寺と遊女を思う」

寺地 靖

「遊女の投げ込み寺」だった浄閑寺、寺が創建されたのは一六五五年で、もともと日本橋人形町付近にあった遊郭がその2年後に移転してきました。一八五五年に発生した安政江戸地震では遊女も多数亡くなりましたが、その際に五百名以上の遺体が投げ込み寺として葬られたというので「投げ込み寺」と呼ばれるようになります。

吉原では身寄りのない遊女が亡くなると人目を避けて密かにこちらに運び込まれ、供養など一切されずに葬られました。

「心中」「枕荒らし」(客の財布を盗む)「起請文乱発(お気に入りの客に手紙を出す)」「足抜け(脱走)」「等々の掟を破った遊女の場合は、遺体が素裸にされ、荒庭に包まれた状態で文字通り「投げ込まれました」。

遊郭としての吉原は何と昭和33年4月1日まで存続したので、当地で江戸・明治・大正・昭和と三〇一年続いたが、関東大震災で亡くなった数を含め五〇〇〇名の遊女がここに運び込まれました。

「生まれては苦界 死しては浄閑寺」

花又花酔が詠んだ句!! 遊女の壮絶な人生が伺えます!!



吉原の遊女(身分が高いのが花魁(おいらん) 喜瀬川・紫・千早・清花 朝霧・夕霧・鯉・高尾・粧・朝雲・霧里・唐橋 etc...



浄閑寺



浄閑寺の御朱印



「八十三歳じつじつ」

中島 敬也

創立二十周年おめでとうございませう。それにしては早いものですね。自動車運転も二十歳でとって、八十歳で返納しましたから丁度六十年乗ったことになりました。昨年は「病」の百貨店を開店しましたので、忙しいことでした。

高血圧症、糖尿病、心臓弁膜症、動脈弁交換、椎間板狭窄症、腰痛症、手術もしましたが、腰痛がまだ治らずに困っております。南京玉すだれ、銭太鼓、トーンチャイム等を持って介護施設をめぐるりましたが、八十歳を越えるところから慰問を受けるようになっております。



「九期会の思い出」

中田 洋子

桜の花も新緑となり、「新型コロナウイルス」のため、花見の宴もなく、大へん残念でした。しかし私は九期に最後まで在籍することができ、何よりも幸せに思っております。皆様のお蔭で日帰り旅行、阿蘇の山歩きに女一人参加して楽しく一日を過ごしたこともありました。

最近では好きな熊本市内「鶴屋百貨店」のショッピング、町内のイベントも中止、毎日淋しく過ごし、九期会報を時々楽しく読んでいます。最後になりましたが、九期会役員全員の皆様、大変お世話になって有難うございました。これからもお互い身体を自愛なさって、お元気で過ごしてくださいませ。



「ありがとう九期会」

野口 マスミ

さわやか大学でいろいろな事を学び又体験させていただきました。私にとっては何もかもが初めてのことで、ウキウキワクワクしながら登校した事はつぎりと覚えております。一番印象深かったのは自衛隊見学で戦車に乗せてもらったことです。

時の流れは戦時中の辛かったことを一番の思い出に変わる日でした。この頃、年齢を重ねて記憶もとぎれとぎれの日々ですが、こうして振り返ると、人は苦しければ苦ししいほど、その先にある喜びを大きく実感しています。つまでも覚えているものだと思っています。



「和する同期の桜替え歌」

橋本 京子

三月、四月は花見の時期に「コロナ」という病気があらわれ大変です。九期会会報も最後のこと、残念です。一生懸命に作成していただいた役員の方々、本当に有難うございました。さわ大に入学会して三回になり、皆様に良くしていただき幸せでした。

一泊旅行、見学会、毎月の食事会、平成最後まで続きました。最後は四名になり淋しくなりました。でも思い出はいっぱいあります。阿蘇までの汽車の旅、ホームで汽車を待つ間、今日は何名で行くのか想像しながら待っている時、また汽車の席では大声で話し笑っている旅のようでした。さわ大でも色々と思いは大なり小なり浮かんでいきます。本当に皆様にお世話になりました。最後に一番の思い出は総会等の後で皆で歌う「同期の桜(替え歌)」を甲斐さんのハーモニカで歌う、皆様の顔は一生忘れません。



「熊本に来て」

日高 綾子

六回目の転勤先として、熊本に来ました。三十八歳の時でした。主人は熊本で二年勤務して、単身で転勤して行きました。姫路城、弘前城、大阪城と見てきましたが街の中に突然お城が現れて、今何時代と、加藤清正が飛び出して来そうな錯覚を覚えました。

父は戦時中、二の丸広場で訓練したそうです。さわやか大学では、潮谷前知事の「きょうやろうと決めたことは必ずその日にやり遂げなさい」というお話が心に響きました。できた日は一日もありません。これから先ますますできないでしょう。時間の無駄ばかりして、過ごしてきたことを、後悔してもしきれません。これから先、自分だけのために自由に使える時間が有り余るほどあるのに、何をしたら満足できるのかしら。

四月二十二日、大学院から文書が届き、コロナウイルスのために大学院12期講座は四月以降今年度中止と決定しました。授業料及び入学金は一万円返還するそうです。今年度、九期からの入学生はおりません。



「自由奔放に生きて人生」

村田 亨

令和二年四月、当年八十七歳と三ヶ月、毎日楽しく過ごしています。福岡大牟田で誕生、満州牡丹江で小学校一番子、中学一年で吉林終戦、一年間遊び楽しむことが出来、身長一六八センチ、引き揚げて宇土郡三角町、宇土高校、現熊本学園大に進学し、教師の道へ。阿蘇・熊本の小中学校、ラグビー、ソフトボール、サッカーを指導、現在ラグビースクール顧問、楽しい日々を動物園の中間に住んで終日楽しんでます。

夕刻は下江津湖広木公園の散歩、ノンアルコール一本、残念なこと、車の免許返納、車を下取りに出す。淋しいです。けれどそれで良いと安心していきます。身体のバランスが時々そろわず転ぶこともあり。痛みは足に少しだけ。楽しい毎日です。

さわやか大学九期会、良い生活でした。まだ楽しみたいと考えています。生きていく事、健康である事が何より大切だと考えます。現在考えることは新型コロナウイルスです。人間対病原菌の戦いだと思います。菌を押さえることはマスク、ビニール服、消毒、家に閉じ込める以外ないのか、何日何ヶ月で終了するのか、夏になり菌が死滅するのか素人の考え方、医者でもよい考えが出ない分、私たちが生活していくため、どうするか不明です。

残された人間生活をどのように楽しく過ごしていくか考えます。子どもたちは公園でサッカーボール遊び、大人は犬の散歩など、挨拶もせずに、ただ頭を下げるのみ、なんだかみじめです。家族を大切に人々との出会いを楽しみに生活して行きたいものです。九期会の皆様、元気でまた会いましょう。



「老人ホーム生活」

森口 定實

昨年10月6日、有料老人ホーム「大寿園」に入所して五ヶ月が過ぎ、私老人ホーム生活にもなれ元気で過ごしています。昨年妻を亡くしてから長女と二人で過ごしていましたが、親子とは言え口論が絶えず、娘は私が病氣などに罹ったとき、一人では介護出来ないと言いつつ、私に対して、有料老人ホームで生活出来ないかと話しを持ち掛けてきました。私はこの話に対して抵抗を感じましたが、年齢、体力的にこの話を了承して入所することになりました。

現在八十五歳、歳をとれば子に従え、と言いますが老人一人になれば、こんなに淋しいものかと思えます。私は会話をする人が無く毎日淋しい生活です。でも私には、南京玉すだれ、銭太鼓という芸が出来ます。毎月二回の練習で仲間と逢い、稽古するの一番の楽しみで、ボランティア活動を、身体が元気なうちに、仲間と一生を捧げるつもりでいます。